



2023年5月30日
 神戸国際大学 キリスト教センター通信
 第89号

「正しく怒る」



キリスト教センター長 ミカエル 藤倉 哲哉

「愚かな者は、怒りによって自分を滅ぼす。」(ヨブ記5:2)
 「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は
 城を攻め取る者にまさる。」(箴言16:32)

「悪戯して親に怒られた」「遅刻して先生に怒られた」ということがあります。親が子のいたずらに、先生が生徒の遅刻に対する場合は「叱る」のほうが相応しいようにも思いますが、どちらにも「よくないことを咎める」という意味があるので、日常では「怒る」も「叱る」も同じように使っても間違いではないようです。しかし「怒る」の第一義には「不満や不快なことがあって我慢できない感情」「腹を立てる」とあり、ニュースで「大統領の不正に国民が怒って抗議の声を上げた」などと聞くと、よほど悪い大統領なのか、あるいは感情の激しい国民なのか、いずれにせよいたずらや遅刻のように日常であって欲しくはありません。

私の父は司祭で教員でもありましたが、そんな父がかつて「怒った」ことがありました。ある企業の対応がまるで「人権を踏み躪る」かのようで、その場の他の人たちも同じ扱いを受けたので抗議したのです。そして、抗議の電話を切った父は私のほうを振り返って「こんな時は怒るんだ」「正義が通らないときは躊躇わずに抗議しろ」と言いました。正しい人だと信じていた自分の父親が、ただ一度だけ静かに「怒った」顔を見た経験でした。

戦争・弾圧・差別・虐待・犯罪・いじめ・ハラスメントなど、不義の例は枚挙に暇がありません。私たちは住みよい社会の一員となるべく政治や経済に関わっていかなければなりません。選挙で投票しても社会は変わらない、一生懸命に働いてもなかなか評価されない、人間関係が煩わしい、上級国民だけがいつもいい思いをしている…など、腹が立つことも多いでしょう。どうしてよいかわからない、いやきつと何をしてもうまくならない…と途方に暮れてしまいそうです。

学生のみなさんには、社会人として地域でも職場でもよい経験を積み重ねていてもらいたいところですが、ゼミ生にブラック企業のニュースを題材に「会社で困ったらどうする?」と尋ねると多くの学生は「辞めます」という答えでした。「我慢せず命も省みず脅威に立ち向かって戦え」とまでは言いませんが、理不尽な扱いを受けたら抗議する、糾すなどを考えることも必要でしょう。

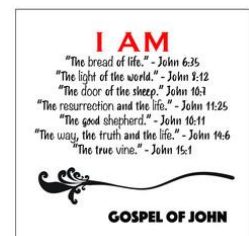
もちろん、相手が独裁国家や権威主義的な集団だったとしても、暴力や反乱など違法な手段で対抗・報復することは許されません。客観的に情勢を分析して正しいと信じる行動を選択する、諦めずに選挙で投票する、団結を求めて外部に向け情報を発信するなどを考えることが必要です。

会社に反抗して解雇されたくない、独裁体制に対抗して弾圧されたくないというのはその通りですが、ひとりで悩んでいても解決しません。そして、何より正しい者が不義を恐れる必要などないので、それにしても、正義や平和はどこへ行ってしまったのでしょうか…。

一口メモ 「絶対だれでも知ってる… “福音”」

みなさんは「福音」という言葉を知っていますか。これは「よい知らせ」「喜ばしい便り」のことで、戦いに勝利して平和がもたらされる、苦しい支配から解放される、罪を赦されて救われる、神の国が近づくなどを意味しています。

たしかに、文字からも「よい知らせ」であることは容易に想像できますが、それでは「福音」は英語で何というでしょう。「そんなん知らんわあ〜」なんて言わないで下さい。福音が“GOSPEL”といえは「聞いたことある」、そしてもうひとつの福音がギリシャ語なのに「絶対だれでも知ってる…」はずの“EVANGELION”といえは「そうやったんや…」となりますよね。



ウクライナのための祈り

正義と平和の神よ、
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。
明日を恐れるすべての人々に、
あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。
平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、
み旨に適う決断へと導かれますように。
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいるあなたの大切な
子どもたちを、あなたが抱き守ってくださいますように。
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン。

ジャスティン・ウェルビー大主教
スティーブン・コットレル大主教



A Prayer for Ukraine

God of peace and justice,
we pray for the people of Ukraine today.
We pray for peace and the laying down of weapons.
We pray for all those who fear for tomorrow,
that your Spirit of comfort would draw near to them.
We pray for those with power over war or peace,
for wisdom, discernment and compassion to guide their decisions.
Above all, we pray for all your precious children, at risk and in fear,
that you would hold and protect them.
We pray in the name of Jesus, the Prince of Peace.
Amen.

Archbishop Justin Welby
Archbishop Stephen Cottrell



ウクライナのための祈り (カード) 日本聖公会東京教区のページへ

禁複製転載 (C) St.Michael's KIU_MTF
神戸国際大学キリスト教センター

